

土地改良区等における農業水利システムの概要作成にあたって
～ 秋田の農業用水とその魅力 ～

秋田県は全国有数の米の生産地であり、主力の「あきたこまち」やブランド米の「サキホコレ」をはじめとし、当県で生産された米は全国の食卓に提供され、日本の食文化を支えています。この秋田の米は、県内に広がる水田での水稻栽培により生産されており、その生産に必要不可欠な要素の一つが農業用水です。春の田植えの前には水路から田に水を入れて冠水させ、トラクターにより水田を耕起する「代かき」作業が行われますが、この時期には年間で最も多くの農業用水が必要とされます。そして代かき・田植えの後にも、田を乾かさないう管理用水として田に水が入れられ、7月はじめに一度田を乾かす「中干し」が行われた後、8月末頃まで田に水が入れられ、9月頃から水を切って田が乾かされ、10月頃に稲刈りが行われます。

この農業用水は、各地域でどのような経路を辿りそれぞれの田に辿り着くのでしょうか。一般的には、河川を堰き上げる頭首工や揚水機場などで取水され、幹線水路を流れ、幹線水路上の分水施設により支線水路に入り、さらに支線水路から末端の小用水路に分水され、小用水路から田に引き入れられます。また、一度に多くの水を使う代かき時期や、河川の水量が少なくなる中干し後の時期には、必要な水量を賄うため、予めダムやため池に貯められた水が河川や水路に放流されます。

これらのような農業水利施設は、地域の地形や河川の流量などの自然条件、歴史や行政境界といった社会条件、そして各時代に利用可能な技術的条件などの上に造成されてきました。各地域の中でのダムやため池の有無や規模、河川からの頭首工による自然取水又はポンプによる揚水、水路のルート、水路の各区間が流せる水の量、開水路やパイプラインといった水路の構造などの施設の構成は、それぞれの自然的・社会的条件を踏まえた特徴あるものとなっています。これらは、この秋田の各地域において農業発展を願った農業関係者の皆様が、それぞれの時代の技術を駆使し、苦労の末に造り上げた知恵と努力の結晶であります。

そして、これら農業水利施設の維持管理を担っているのが、各地域にある土地改良区や水利組合等の組織です。これら組織は受益者の賦課金により運営されており、ため池の取水施設、頭首工の取水ゲート、水路上の分水ゲートなどを操作し各受益農地に農業用水を配分するとともに、水路の堆積物の撤去や草刈り、老朽化した施設の補修などを行っています。

本資料は、秋田の各地域において農業を支える一連の水利施設を土地改良区毎にまとめたものです。読者の皆様の地域を流れる農業用水は、または読者の皆様が食べる米の産地で水稻生産を支える農業用水は、どこからどこへ、どのような施設を通じ流れているのでしょうか。本資料は、土地改良区毎に差異はありますが、概ね以下のような構成となっています。

- ・当該土地改良区の受益地の位置
- ・当該土地改良区の受益地が複数の地区又は工区から構成される場合、その位置
- ・各地区又は工区における農業水利施設の路線図
- ・各地区又は工区における農業水利施設の概略がわかる写真
- ・当該土地改良区の受益地内で末端水利施設の維持管理等を担う各組織の活動位置
- ・当該土地改良区の受益地内で実施されたほ場整備事業の位置
- ・当該土地改良区自体の歴史や近傍の歴史的施設

本資料の作成に当たっては、各土地改良区をはじめ関係機関の皆様に多大な御協力を頂きましたことに感謝申し上げます。本資料を通じ、ぜひ読者の皆様が、この秋田における農業用水とそれを流す農業水利施設の大切さ、そしてその魅力を感じていただければ幸いです。

令和7年3月26日

農業農村整備等技術検討委員会 委員長
農林水産部参事（兼）農地整備課長 足立 徹